

生活をあるのは普通の場所がいい STOP! 精神科病棟転換型居住系施設!!

NEWS

通巻第18号(2014年10月10日) 発行: 病棟転換型居住系施設について考える会

速報

11月13日 院内集会決定! 12:00~14:00

会場: 参議院議員会館 101 会議室

● 詳細は後日お知らせします

10/3 病棟転換型居住系施設について考える会・大阪 開催

山本 深雪 (大阪精神医療人権センター)

10月3日、「病棟転換型居住系施設について考える会・大阪」が開催されました。平日にもかかわらず、180人の参加がありました。(資料が当日足りない方が発生し、失礼しました)

大阪精神障害者連絡会(ぼちぼちクラブ)、公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)、NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)、NPO大阪精神医療人権センターの4団体主催の実行委員会形式で開催しました。



当日は府庁記者クラブにも連絡をしていた関係で、この間、長期入院から生還してきた本人をとりまく取材や病棟訪問活動を行っている人の普段の暮らし(地域生活支援センター利用やお弁当の配達など)の取材などがすすんでいます。

その内、一部が、昨日の考える会・大阪の様子も含め、関西テレビの夕方のニュースで

「考える会」では、この問題について、多くの地域で学習会を開催していただくことを願っています。数人での小規模の学習会でも、依頼があれば講師を派遣したいと考えています。テキストには『病棟から出て地域で暮らしたい』(やどかり出版)をご活用下さい。(本紙の4ページをご覧ください)

病棟転換型居住系施設について考える会

stopbttk@yahoo.co.jp

この『NEWS』は、複写、転送、転載、大歓迎です。ご自由かつ積極的にご活用ください。

流されると聞いています。画像の取り方の進め具合からドキュメンタリーもできる内容と時間数の経過等があり、こちらはまだ先でしょうがいずれも継続しています。

また新聞の論点に、この病棟転換型の意味することをテーマとした内容が、読売新聞で1つの面をさいて掲載される予定で、近日発行予定ときいています。(山の噴火などがおさまるのを祈りつつ)(注:2014年10月7日読売新聞論点スペシャル欄で報道)

世の中と私たちとの関係を問う、精神の病を得たものをずっと医療施設に閉じこめて、かたづけができたとする国の仕組みの貧しさよ!おまけに生活の場まで医療系しかないと言うなかれ。

私は年老いても、精神しょうがいを抱えていても、仲間づきあいできる人の輪で生きて生きたい、おかしいことにはおかしいと口にして。

○ 講師を務めた長谷川利夫さんの感想……

大阪ですが、東淀川の体育館で180名の方々が集まり、日比谷野音を思わせるような盛り上がりでした。

最後は、大阪弁護士会の方がリレートークに出られ、転換問題で大阪で力を合わせてやっているのがよくわかるような内容でした。

「こんなものはいらないと、府として国にちゃんと言ってくれ」という明確な主張がとても一体感をかもし出している感じがしました。

○ 共同通信配信記事

居住施設転換方針に反対 精神科病棟めぐり集会

<http://www.47news.jp/47topics/e/258025.php>

国が容認方針を固めた精神科病棟を精神障害者の居住施設に転換することについて、問題点などを報告しあう集会が3日、大阪市で開かれ、参加者らは「実質的に病院の管理下に置かれる。これまでの地域移行に向けた努力に水を差す」と反対の声を上げた。NPO法人「大阪精神医療人権センター」など4団体が主催した。

厚生労働省は7月、精神科病院の長期入院患者の退院を促すとして、入居年数など一定の制限付きで病棟を居住施設へ転換することを認めるとした。一方、当事者団体などからは「退院にならない。看板の掛け替えだ」との反対も根強い。

杏林大の長谷川利夫(はせがわ・としお)教授は「『障害者は特定の施設で生活する義務を負わない』とする障害者権利条約に違反する」と批判した。

大阪府は2000年に全国に先駆けて長期的入院を解消する事業を実施。退院した患者への面接調査で、8割以上が訪問看護などのケアを受けながら地域生活を継続し、現在の生活に「満足」と回答したという。

大阪人間科学大の辻井誠人(つじい・まこと)教授は「障害があると普通の暮らしができない社会は、不完全で不幸だ」と訴えた。(共同通信)

○ 大阪市では署名に取り組んでいます。

大阪市会議長

精神科病院の病棟を居住系施設に転換することに反対する 意見書提出を求める陳情書

【陳情趣旨】

2014年7月1日厚生労働省「長期入院精神障害者の地域以降に向けた具体的方策に係る検討会」(以下「検討会」)は、病棟を転換し居住系施設(介護精神型施設、グループホーム、アパートなど)にすることを容認する具体的な方策をとりまとめました。

精神科病棟の入院者数は全国で32万人、内1年以上入院は全体の7割近くの20万人を占め、入院の長期化が問題となっています。この問題を解消するために病院の空き病棟などを利用して居住系の施設に転換しようとしているのが「病床転換型居住系施設」です。

大阪府下の精神科病院は19480床、その内市内に233床です。ほとんどが府下にあり、しかも、山林や農地に囲まれた所にあることが多く、そうした病院内に居住系施設を造っても「退院すること」「地域で暮らすこと」になるのでしょうか?「退院」とは本人が入院前に暮らしていた地域社会への復帰(大阪弁護士会会長声明)です。これは、社会的入院を余儀なくされている人にとって不自由の象徴である病院の敷地内に「新たに収容される」ことであり、「新しい社会的入院」をつくることになるだけです。

第2回の「検討会」(平成26年5月12日)の資料「1長期入院精神障害者等からの意見聴取結果の報告」の中で「住まいが病院の敷地内なら退院したいですか?」という質問に「退院したくない」と答えた人が約60%もいました。そしてこの「検討会」の構成員25名中、当事者はたったの2名です。このように尊重されるべき当事者の意見が反映されないまま「取りまとめ」が行われているのは問題です。

これらのことは「病棟転換型居住系施設」が障害者権利条約19条1.「障害者が、他の者と平等に、居住地を選択し、及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること並びに特定の居住施設で生活する義務を負わないこと。」に違反していることを示しています。

日本の精神科病院は90%が私立病院です。空きベッドがある限り、それを埋めようとする経営維持作用が働くわけで、医療保護入院などの強制入院も増加する可能性があります。精神科病院の経営優先でなく、生きづらさを抱えた人達が地域でみんなと一緒にいきいき暮らせるためにどうするかということを真剣に考えることこそが大事です。

以上により、当事者の意見が反映されていない「病棟転換型居住系施設」は問題だと思えます。以下につき、意見書提出を求めて陳情いたします。

【陳情項目】

大阪市会から、精神科病院の病棟を居住系施設に転換することに反対する意見書を提出してください。

2014年11月 ※この署名は、大阪市に提出する以外に使用しません。

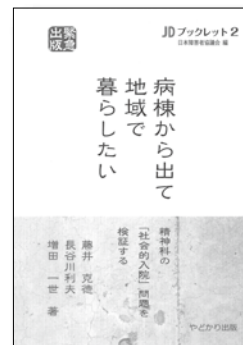
署名呼びかけ団体…医療保護入院制度を考える会 <連絡先▶ 090-8576-0196

緊急出版 「病棟転換型居住系施設」問題をめぐって

病棟から出て地域で暮らしたい

精神科の「社会的入院」問題を検証する

A5版 124ページ 定価 1000円 2014年9月 やどかり出版



病棟転換型居住系施設問題は、看過できない社会問題である精神科病院への「社会的入院」を見かけ上解決してしまおうという動きでした。しかし、日本における「社会的入院」には、歴史的な背景の中、根深い問題が横たわっています。本書は、「社会的入院」問題の背景、その本質を伝えつつ、改革への具体的方策を描き出しています。

また、3,200人が集まった日比谷野外音楽堂での緊急集会でのリレートークが掲載されています。この人たちの声を社会に広く伝えたい、そんな思いを込めて本書が出版されました。全国各地で開催される集会や学習会の資料としてご活用いただければと思います。

目次

第1部 障害者権利条約からみた「社会的入院」問題

- 第1章 「病棟転換型居住系施設」問題の背景と危険性 長谷川利夫
- 第2章 社会的入院問題の背景と改革への視座 藤井克徳
- 第3章 社会的入院の真の解決に向けて 増田一世

第2部 生活するのは普通の方がいい

- 第1章 新たな局面を迎えた精神障害分野 増田一世
- 第2章 6.26 緊急集会リレートーク

* 地域での集会・学習会の資料で本書をご利用になる場合には、10冊以上ご注文の場合には2割引き+送料でお分けできます。(50冊以上の場合には2割引き+送料無料)
ご注文は、やどかり出版まで (電話 048-680-1891 ~ 1892 Fax 048-680-1894)

注文用紙

JDブックレット2 病棟から出て地域で暮らしたい 精神科の「社会的入院」問題を検証する			冊 申し込みます
〒 ご住所		Tel Fax	
ふりがな お名前	E-mail		

病棟転換型居住系施設について考える会

stopbttk@yahoo.co.jp

この『NEWS』は、複写、転送、転載、大歓迎です。ご自由かつ積極的にご活用ください。

《連絡先》長谷川利夫 (杏林大学保健学部作業療法学科)

TEL.042-691-0011 (内線 4534) [携帯電話] 090-4616-5521

<http://blog.goo.ne.jp/tenkansisetu>